

麻郷小学校 特別支援教育だより



R5.7.13



よりよいサポートのために！

お子さんのことをいつまでも大人が手伝い、声をかけ続けるだけではなく、いつかは一人で行えるようになるために、接し方の工夫や環境調整によって、変容を促すことが大切です。家庭と学校、それぞれができることを相談し合い、よりよいサポートにつなげましょう。

ケース1 忘れものが多い



だらしないわけではありません。注意が長く続かなかつたり、重要なことが何か分からなくなつたりするだけです。どうすれば忘れないですむかを、お子さんと一緒に考えましょう。

① 持ちものの数や種類を増やさない。

筆箱の中には決まった数の鉛筆や消しゴムを入れるなど、確認のしやすさを優先します。

② 持ち帰ったものを置く場所を決める。出していない場合は促す。

学校からの連絡プリントを把握するためにも、必要な習慣ですね。



③ 持っていくものは、前日に準備し、決まった場所に置く。



せっかく仕上げた宿題を忘れずにすみませす。出発前には、決まった場所にあるものを持っていくという工夫です。

④ 教室の机の引き出しになるべくものを残さない。

引き出しの中身を、残すものか、持ち帰るものかの区別は、意外に難しいようです。忘れものを減らす工夫の一つです。

⑤ 持ちものの移動をなるべく少なくする。

使わない学習用具や教科書は、置いておきます。教室用にスペアの文房具を置く方法もあります。

⑥ 忘れものがない日は、しっかりほめる。

始めは手助けが必要ですが、自分から準備したり、忘れものがなかったりしたときには、おおいにほめましょう。

* 次回は、【ケース2 整理整頓が苦手】について考えます。